



山學新聞

山村学園高等学校

〒350-1113 埼玉県川越市田町16-2

TEL.049-225-3585 FAX.049-222-5356

URL: http://www.yamamura.ac.jp/

編集発行/山村学園高等学校広報部

学校生活点描

4月には見事な花々をたどり見せてくれた中庭の桜の木も、今は豊かな緑の葉を大きく広げ、強い日差しを避けて集まってくる生徒達を見守ってくれているようです。さて、1年生が入学してから早くも2ヶ月が過ぎようとしています。5月末には、前期中間試験も経験しました。あっといふ間の2ヶ月ですが、その間にはさまざまなことがあったことと思います。友達のこと、先生のこと、勉強のこと、部活動のこと等々。そこでいくつかのクラスの生徒に次の質問に答えてもらいました。(5月28日・6月2日実施)

はできていますかと思いましたが、次のテストはもっと前もって勉強したいと思っています。(2組・男) 中学校と違って、はできていますかと思いましたが、またみんなが満点を目指しているのが気が抜けません。(1組・女) テストで赤点があることは。(6組・男) スピードが速いのでついて行くのが大変です。(3組・女) 中間テストが終わるとすぐにクラス分け(習熟度別)授業があり、自分分はクラスが上がり上がったのでうれしかったことです。こういうことが毎回テストのたびにあってと思う。自然と勉強をやるようになったかと思いましたが。(1組・男) 放課後のゼミも始まり、授業とはまた少し違って大学の問題などに少し触れてくれるので面白いです。(1組・女)

「超」については、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。



教室の様子

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

マッチングの考え方

校長 牧野彰吾

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

新入生宿泊研修会を終えて

入学してすぐに行われたのが、「新入生宿泊研修会」(4月13日・4月15日)です。1年生諸君は2泊3日の研修を通して、本校の生徒としての自覚を持ち、自己学習の大切さを学ぶ目的で、楽しくも厳しくもあつた研修を終えてきました。さて、その時に学んだことが現在でも継続して学校生活に活かされているでしょうか。次にその時の研修のまとめをいくつか紹介します。

今回の宿泊研修会では、「5分前行動」です。私はいつもぎりぎりで行動していたのですが、大変でした。しかし体験してみても5分前行動の方が時間も心も余裕があるので、こちらの方が良いと思いました。他に思い出に残っていることは最後の夜の歌唱発表会です。みんなで歌った時、部屋中にすごい大きな声響いてびっくりしました。ひとりだけ大きな声で歌うのは恥ずかしいけれど、全員で一生懸命に歌っていたので羞恥心を持つこと

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。



「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。



今回の、2010 FIFAワールドカップ南アフリカ大会、深夜まで試合に夢中になり、次の日が寝不足だった人も多かったことでしょうか。さて、ベスト16進出を果たし日本中を沸かせたサムライブルー、岡田監督が1日夕方、帰国会見を行いました。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

「超」というのは、飛び抜けていてという意味に使われるべきですが、最近ではそれほど「超」でもないのに枕詞のように「超」をつけたがる傾向があります。「超」は意味を失くしてアクセサリに変身しています。「壁」はパライムのこと。一つの考え方、見方、ラダーのこと。一つの考え方、見方は、まず「自分ありき」ではない。本校が実践している「7つの習慣」のバラダイム転換にも通じるものです。

